

第4章 試験検査

試験検査業務は、行政検査と依頼検査に大別される。

行政検査としては、健康危機管理に伴う検査、食品保健に係る検査、水質検査、臨床検査等を行った。

依頼検査としては、食品検査、水質検査等を行った。

第1節 行政検査

1 健康危機管理

（感染症、食中毒等関連検査）

感染症や食中毒など健康危機の発生に対し、保健所は、迅速に原因を究明し、健康被害の拡大を防止するための初動検査を実施している。

健康被害の発生に伴い、検便や食品等検体について関係項目の検査を実施した（表1）。

このうち健康被害の原因と判明した病原微生物について示す（表2）。

表1 健康被害発生に伴う検査

令和6年度（単位：件）

検体の種類		便・菌株	食品等	浴槽水	計
検 体 数		109	5	19	133
検 査 項 目	生菌数	－	－	－	－
	腸管出血性大腸菌	104	－	－	104
	病原性大腸菌	35	－	－	35
	大腸菌	－	－	－	－
	大腸菌群	－	－	－	－
	サルモネラ属菌	35	－	－	35
	腸炎ビブリオ	35	－	－	35
	黄色ブドウ球菌	35	5	－	40
	カンピロバクター	35	－	－	35
	セレウス菌	35	5	－	40
	ウェルシュ菌	35	－	－	35

ノロウイルス	40	－	－	40
サポウイルス	7	－	－	7
ロタウイルス	7	－	－	7
<i>K. septempunctata</i>	－	－	－	－
レジオネラ属菌	－	－	19	19

ノロウイルス、サポウイルス、ロタウイルス、クトア、レジオネラ属菌検査については保健環境センターで実施

表2 健康被害の原因と判明した病原微生物

令和6年度

発 生 月	検 体	病原微生物
R6.6	便	腸管出血性大腸菌 088:H12 (VT1)
6	便	腸管出血性大腸菌 0156:H25 (VT1)
6	便	腸管出血性大腸菌 0128:H2 (VT1, 2)
6	便	腸管出血性大腸菌 0157:H7 (VT2)
7	便	腸管出血性大腸菌 0157:H7 (VT2)
8	便	腸管出血性大腸菌 0156:H25 (VT1)
9	便	腸管出血性大腸菌 0157:H7 (VT1, 2)
10	便	腸管出血性大腸菌 026:H11 (VT1)
11	便	腸管出血性大腸菌 0157:H7 (VT1, 2)
12	便	ノロウイルス G I
R7.1	便	腸管出血性大腸菌 0111:H-/Hg8 (VT1)
1	便	<i>Campylobacter jejuni</i>
3	便	腸管出血性大腸菌 08:H7 (VT2)
3	便	ノロウイルス G II

2 食品保健

食品製造事業者等に対し、夏期、秋期及び年末の食品衛生一斉監視指導に伴う収去食品について、細菌検査を実施した（表3）。

表3 食品衛生一斉監視指導等による収去検査
令和6年度（単位：件）

区 分		食 品		合 計
		成 分 規 格	県 指 導 基 準	
検 体 数		52	79	131
検 査 項 目	細菌数(生菌数)	22	79	101
	大腸菌群(定性)	21	42	63
	大腸菌(定性)	12	34	46
	大腸菌(定量)	4	－	4
	腸管出血性大腸菌	－	－	－
	サルモネラ属菌	6	54	60
	黄色ブドウ球菌	6	60	66
	カンピロバクター	－	－	－
	腸炎ビブリオ (定性)	－	－	－
	腸炎ビブリオ (定量)	15	－	15
	恒温試験及び 細菌試験	4	－	4

3 水質検査

管内3ヶ所の海水浴場で、海水浴場開設前と開設中のそれぞれについて、1日あたり2回を2日間採水し、水質検査を実施した（表4）。

表4 水質検査 令和6年度（単位：件）

区 分		海 水 浴 場 水
検 体 数		30
検 査 項 目	水素イオン濃度	24
	化学的酸素要求量	24
	糞便性大腸菌群数	30
	腸管出血性大腸菌O157	6

腸管出血性大腸菌O157 検査については保健環境センターで実施

4 臨床検査

HIV抗体検査として、免疫クロマトグラフィー法によるHIV迅速検査を95件実施した。